

久里浜アルコール症セン ター・ 東日本大震災 第26班被災地派遣報告

報告者 藤田さかえ

第26班活動内容

- 期間 8月31日から9月2日
- メンバー: 医師 松下 滝村 看護 早(東1)
PSW 藤田
- 支援内容 ①訪問 10件 ②来所相談 2件
内AL3件
- 活動地域: 大船渡 末崎 綾里 赤崎
陸前高田
- 打ち合わせ・引き継ぎ: 県保健所 地区担当保健師 医療チーム(沖縄)とミーティング

派遣メンバー(一部です)



現地は実りの秋を迎える季節



現地の状況(1)

- 岩手県は8月末で予定数の仮設住宅が設置され、避難所はほとんどが閉鎖。
- 大船渡市の災害対策本部は終了。
- 大船渡市の派遣保健師チームは8月で終了。今後は市の保健師で対応。
- 医療チームは沖縄チームが隔週で研修・教育活動を中心に、あと数回で終了。
- 保健師・医療チームの合同ミーティングは週3回から1回に縮小。

現地の現状(2)

- さまざまな派遣チームの活動が終了し、被災地支援の転換点
- 市の保健師は通常業務(予防接種など)が再開。
- 派遣期間を明確にしている医療チームは当院のみ。
- 震災から6カ月経過。被災地支援の転換期を迎えている。

水曜日のミーティング



現地の状況(2)

- 大船渡市内のガレキは片づけられ空き地が目立つ。
- 陸前高田市は今だに撤去されていないガレキが多く残っていた。

大船渡中学校仮設住宅



大船渡と陸前高田



期間中依頼された活動

- ①気仙光陵支援学校の訪問（沖縄チームの活動の後任として） 調整が難しく対応できず
- ②新規訪問依頼 2ケース（27班へ引き継ぎ）
- ③こころの相談 新規ケース 1
- ④気仙苑（老人保健施設）の職員研修。沖縄チームが対応。
- ⑤NHKの取材：震災半年後の支援について

アクティブケース概要

- 継続ケース(対応3回以上) 10件(アルコール3件・ PTSD2件 うつ病 1件 不眠2件 不明3件)
- 必要に応じて対応 3件
- 継続訪問のアルコールケース 3件

訪問ケースの特徴：アルコール

- 男性3名 訪問か抵抗されながらも継続
- 単身者2名 夫婦で同居 1名
- 単身者2名は年代は60代から70代。
- 震災前から大酒傾向。昼酒が普通の生活
- すでに現役を引退し年金で生活。仮設には友人の訪問が維持されそれなりの生活が成立。
- 身体的に不調でも外部からの支援に抵抗。
- まず自分でやってから友人に頼む。
- 飲酒については根本的な見直しの意欲はない。
- 訪問は受け入れている場合でも深いかわりは拒否。

対応ケースの特徴

- ①地縁・家族縁が強い
- ②同居家族も疲労が高くサポートが必要
- ③厳しい自然と共存の生活を背景とした「自立度」の高い生活力。症状があっても自分で生活を再建。
- ④被災前からの家族問題
- ⑤高齢者が多く、今後の生活の方向性が見えない苦しみ。

支援チームの支援とその限界

- ①傾聴
- ②身体状態のチェックと健康管理のアドバイス。時にはそれで終わることが多い。
- ③処方
- ④チームメンバーが一定しないため、援助関係を一貫性を維持することの困難。
- ⑤医療的支援以外の対応が必要。
- ⑥地域の保健師との協働の不足

転換点に来た被災地支援

- 現状の転換期を踏まえて
 - ① 依頼ケースは増加？ 減少？ 地域の保健師が多忙になったことからくる依頼ケース数の変動が予想される
 - ② 連携の密度をどのように形成するか。依頼動機の変化。「精神疾患」「アルコール」の疑いがあればまず久里浜。
 - ③ 継続ケースの支援の見直し